

令和3年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県南会場

科目 ③放課後児童クラブにおける食支援

- ◆ 食物アレルギーについて詳しく知ることができた。放課後児童クラブでは、おやつを提供があるので大変参考になった。おやつ購入時の表示の確認、食後の異常に気を配る必要がある。特に特定原材料7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)には細心の注意を払わなければならない。アレルギー体質の子どもの保護者とは密接に連携していきたい。衛生管理や免疫力を高める内容についても大変参考になった。
- ◆ 好き嫌いの多い子が増えていると私も最近特に感じます。私どもの児童クラブでは既製のおやつが主なのですが、「これ、きらい」「食べたくない」という残す子がいます。おやつは楽しいものと思っていましたが、今の子どもには違うようです。今回の研修を受け、食の大切さ=食べることの大切さを教えていただきました。好き嫌いというのはただ好みの問題だけではなく、「食」全般において興味がない、食事のリズムがとれない、孤食など、色々な問題が関わっているのだと思いました。子ども時代の食事の習慣が大人になってからの身体や心の健康にもつながると思うと、子どもに食事を与えている大人の責任は大きいと思いました。
- ◆ コロナの感染予防のため外食が減り、誰かと楽しく食べる機会は、家族以外では給食と学童のおやつになり、黙食ではあるけれども友達と一緒に同じものを食べることは幸せな時間と思います。アレルギーのある子のおやつは原材料名を支援員全員で確認し、絶対に事故を起こさないとの思いで準備しています。アレルギー症状が出た場合の対応の仕方をマニュアル化することが大事と学びました。万が一に備えての話し合いや訓練も必要と思いました。
- ◆ 人間が生きていくために欠かせない食について、子どもたちが関心を持ち、味覚を育んでいくためには大人の配慮や言葉がけが必要です。生活習慣を見直し、身体のリズムを整えてあげたり、私達が栄養素の働きや食物アレルギーの影響、衛生管理について今一度学び直し、温かい目と心で子どもたちに接していこうと思いました。また、子どもたちが食に興味を持つことにより、多種多様な仕事への道も開けると学びました。
- ◆ 今回の研修で、「食育」は健康的な生活を送るための基礎であり、また、学力と体力の向上、栄養バランス、豊かな人間性を育むなど、生きていく上で大変重要であるということを改めて学びました。コロナ禍において楽しく会話しながらの食事は出来なくなりましたが、学童保育でのおやつを通して季節を感じ、心を満たすことが出来るように工夫し、そして、今まで以上に衛生管理に努めていきたいと思います。